

第4回名張市総合計画審議会会議録（概要）

日 時：令和4年10月5日（水）15時00分～17時00分

場 所：名張市防災センター2階 会議室

<出席者（五十音順）>

埼玉大学キャリアセンター長/教授	石坂 督規	以下：会長
名張市観光協会副会長	市橋 雅美	以下：委員
おじゃまる広場副代表	草部 豊美	以下：委員
公募	澤田 二郎	以下：委員
公募	大黒 史智	以下：委員
地域づくり代表者会議会長	時枝 民生	以下：委員
一般社団法人つなぐ代表	野山 直人	以下：委員
伊賀地域防災総合事務所長	藤井 理江	以下：委員
民生委員児童委員協議会連合会会長	藤村 純子	以下：副会長
名張商工会議所青年部会長	宮本 雄基	以下：委員
名張市農業委員会会長	山崎 祥生	以下：委員

※金野 千恵子 委員（公募）、辻 愛 委員（名張市教育委員会委員）は欠席。

<事務局>

名張市 統括監 中野 雅夫、係長 西口 英司

開会

総合計画審議会を始めさせていただきたいと思います。

それでは、会長のご挨拶をお願いします。

1. 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。

本日、第4回目の審議会ということになりますけれども、この間、8月、9月と、市長が様々なところでヒアリングを實際行ってきたという報告を受けています。今日は皆さんにはお示しはできないのですが、特に若者たちのグループや高校生、大学生、こういったところを中心に今後の将来などについてどのようにお考えか、あるいはどうしたいのか、このあたりを中心に回ってきたということです。

先ほども市長と少しお話もしていたのですが、市長としては、やはり若者たちが働き、そこで活動できる、こういった話にしたいという思いはかなり強いと思います。今までの市政を否定、批判することではなく、若者たちに定着、活動、活躍してもらうために何が足りないのか、何が必要なのか。こういうところをぜひ皆さんと議論して、若者が定着し、活動・活躍できるまちにしたい。こういう思いが強いようですので、そういったことも踏まえながら、皆さんから様々な情報提供いただいて、審議会としての議論と総合計画をまとめていかななくてはなりません。こういうプロセスに入っていきますので、また有益な審議会とさせていただければと思いますので、今日もよろしく願いいたします。

それでは、事務局の方から本審議会の進め方について、お願いします。

2. 第4回審議会の進め方（事務局）

事務局より資料「第4回総合計画審議会資料」を説明。

3. 第4回審議会

（会長）

資料の方に戻っていただきまして、まず基本構想、そして基本構想の中に目指す将来像というところがあります。こちらですが、前回の議論でやっぱり活力があるとか動きが必要という意見もいただきましたので、変化を促すような、そういうような将来像の方がいいのではないかという意見がありました。そういったことから、事務局と相談しながらこのような案を作ったわけです。

「変化に対応し」の部分ですが、変化に柔軟に対応していくという意味で、もし「起こし」にすると、民が主体となって起こすになると思います。

また、「活力あふれみんなでつくる」の後ろの「ほこれる」にするか「愛せる」にするかは、好みの問題と、あと、誇りに思うと、愛するとどちらを優先するかということになると思います。この部分については、現行の総合計画の目指す将来像とは全く違いますよね。現計画は、「豊かな自然と文化に包まれて、誰もが元気で幸せに暮らせるまち名張」。全く違うテーマですよね。すごく動的だと思います。

皆さんいかがでしょう。私の感想としては、これから名張は変わっていくんだという印象があります。

（委員）

時代を変えるというか。

（会長）

そういう感じですよ。

（委員）

新たな目標でもあると思います。守りより攻めという。

（委員）

今後10年後に向けて動いてくるんだなということが見えやすいです。

（会長）

方向性としては、こういう方向がいいということで皆さん一致してますかね。

あとは文言だと思うのですが、まず「対応し」「起こし」の部分ですね。これはむしろ、好みの問題もあると思いますが。

（委員）

「変化に対応」は少し受け身かなと。「変化を起こす」の方が能動態でいいかなと思います。私が考

えたのは、「変化を起こし、みんなでつくる魅力ある愛されるまち名張」。

(会長)

魅力という言葉を入れたんですね。

(委員)

はい。「魅力」と「愛される」どちらも採用したかったので、一つにしてみました。

(会長)

「起こす」というのがポイントですね。「対応し」というと、先ほど言ったように能動的な感じがあまりなくて、どちらかというとな軟というイメージですよ。それでしたら、「変化を起こし」の方が良いのかと。「おこし」をひらがなにされた方がいかなとも思います。

(副会長)

そうですね。

(委員)

地域づくりのイメージからしますと、私自身も団塊の世代ですが、「変化に対応し」というのは基本的には世の中の情勢の流れに対して、そこに遅れない、じっとしていると遅れる。付いていきたいと思います。ということが、どちらかというとな軟に対応し」という言葉遣いを結構してきてると思います。

今の状態でいくと少子高齢化が進んで、日本国内、どこの地方自治体でも陥るところにも陥っているわけですから、それに対して、その動きをさらに乗り越えてというところにちょっとでも行きたいと思うので、私はやっぱり「変化をおこし」の方が良いのかなと。

何となく、「変化に対応し」というのは何か世の中にくっついていく、結果が良い方、悪い方どちらになったとしても、後からの解釈で「私たちは変化をおこしてきた」と説明できてしまう。「変化に対応し」という言葉が解釈上ばらつくような気がするので、今の世の中の情勢に対して、そこを一步進んで名張はやるんだということなら、やっぱり「変化を起こし」の方が賛成ですかね。

(会長)

今、「変化を起こし」の方がという意見が出ました。

逆に「変化に対応し」の柔軟に合わせるというニュアンスの方がいいという方いらっしゃいますか。別にここで決をとるわけではありません。皆さんのご意見を伺いたいということです。

(副会長)

これからのことを考えていくと、変化を起こしていく方が目標に対しても何に対しても、力強く感じます。

(会長)

はい。わかりました。じゃあ、比較的皆さん「変化を起こし」の方の意見が多かったということですね。別に決はとりませんが、これでいきたいと思います。

次に「みんなで作る」の部分について、先ほどご意見が出ましたけれども、「愛せる」か「ほこれる」というところですけど、これはどうでしょう。誇れるまちにしたいのか、名張を愛したいのか、愛せるまちにしたいのか。

(委員)

私はもうすでに自分で「大好きなまち」というのをいつも言っているのです。

(会長)

「愛する」方が近いですか。

(委員)

「愛する」の方なんですけどね。けど、「愛する」っていうと。

(会長)

ちょっと違和感がありますか。

(委員)

元気に活力もあってみんなで作る大好きなまち。「大好きなまち」の方が小さい子どもたちにも分かるのではないのでしょうか。「愛せる」はちょっと難しく感じます。

(会長)

確かに小さい子からすると、「大好き」と「愛せる」は難しいですね。英語にすると多分両方とも LIKE (ライク) ですから近いですよ。

他はいかがですか。「ほこれる」か「愛せる」か。多分名張のことが好きだってことは皆さん一緒だと思うのですが、それをどこで表現するか。この将来像の部分は注目される場所ですから、どんな表現を使うのか大事なところですよ。

(副会長)

「誇れる」と「愛する」では意味が変わってきますよね。「誇れる」というと自慢。誇れるまちにしていくのは、分かるのですが、「誇れる」という言葉って、田舎で住む私らから言うと自慢。そんな感じに取ってしまうような気がします。

「変化をおこし」と強いので、やっぱり「愛せる」とか「大好きなまち」とかいうような、ここでは柔らかくいく、「強い」「柔らかい」言葉を、組み合わせた方がいいような気がします。

(会長)

ただ一方で、名張は対外的な知名度がないとか、ブランドができるようなものがあまりないという話を皆さんからいただいたので、そう意味では10年後を考えたときに、「誇れる」にすれば、もっと外に誇れるような、そういうものを作っていくような意思を示すという考えもありますよね。皆さん謙虚で、何もないみたいなことをおっしゃいますけど。

「愛する」はどちらかと言えば自分がそのまちが好きだっていうニュアンスですよ。「誇れる」

は外に対して誇れる。つまり、外との比較ですよ。であれば、そういう誇れるようなものをたくさん作るというような、そういうイメージに多分なるかなと思います。どちらにするか。

(委員)

気が付いたんですけど、「第4回総合計画審議会資料」の資料の「目指す名張の将来像」の内容と、「名張市総合計画 イメージ案」の資料の「名張市が目指す10年後の姿」の内容について、少し違いますよね。

(会長)

「魅力ある」というところが違いますね。

(委員)

私は先ほど「名張市総合計画 イメージ案」の資料を見て、「変化を起こし、みんなで作る魅力ある愛されるまち名張」を提案しました。

(会長)

「魅力」と「愛する」両方使ったのですね。

(委員)

演歌みたいに「魅力あるまち名張、愛するまち名張」とか。よく演歌は繰り返しますよね、その方が良いのかなと思ひまして。

(会長)

「魅力あるまち」でも「みんなで作る魅力あるまち名張」でも問題ないと思います。いろんな案が出ていますが、ここは自由に語っていただく場ですので。

他にいかがでしょうか。今3つ「愛する」「魅力ある」「ほこれる」と出ていますが、どうでしょう。

(委員)

私も個人的な感覚ですけど、「誇れる」は、「愛する」のその次の段階だと思いますので、まずはそのベースとなる「愛する」の方が良いのではと思います。

(会長)

そうですね。

住んでらっしゃる方が名張を好きになってもらう。愛する。外に対して誇れるよりかは優先順位としてそちらの方が高いのかなということですね。

(委員)

そもそも論かもしれないですけど、こういうスローガンを決める時に、企業で言うと、企業理念、ビジョン、ミッションと下がっていきますよね。

最初に決めるのは理念、パーパスの部分で、今お話しされてるのは将来像の姿なので、ビジョンだと

思います。

現行の総合計画も基本理念は将来像とは別で、「ともに考え、ともに築き、未来つなぐ福祉の理想郷」だと思いますが、それがまずあって、ビジョンがあってミッションがあると思います。

理念についての議論はすでに終わっていたのかな。いうところがあり、そこが決まったら、ビジョンやミッションを考える気がするのですが、そこに皆さん共通の目線があれば、話がしやすい気がします。

そもそも論で申し訳ないのですが、その部分が先ほどから資料を見ても見つからなかったのです。

(会長)

基本理念について、事務局いかがですか。

(事務局)

おっしゃるところは、ごもったもな話であると思います。本来であれば、理念からという思いもあったのですが、本審議会での総合計画についての議論は、1回目は課題などを付箋に書いて出し合う方式から始まった成り立ちですので、本当に何も無い白紙のところからくみ上げていきましたので、本来の流れになっていないということは私も思っているところではあります。

ただ、今、審議会を3回行ってきた中で、ある程度委員の皆様のうちの共通認識ができてきておりますので、この中でのキーワードが理念になっていくのかなとも思っているところです。

今、事務局としてキーワードと考えているのがおっしゃっていただいている「魅力」であったり、「大好き」であったり、そういった、まずはまちを好きになってもらう、そういうところが基本理念ではないかと考えています。

また、この議論の中の将来像がある程度でき上がってきたところで言わせていただこうと思っていたのですが、市長の思いも汲み取り、「愛せる」というのは将来像のところに出ていますので、例えば理念として「語れるまち名張」とか。やはり好きということは、名張はこんなところというのが話せることが、一つなのかなと思います。1回目の審議会の議論でもあったように、名張は何も無いと皆さんが言っていたと思うのですが、10年後には、何かある。名張が、魅力ある。大好き。大好きなのに、何も喋れないということはないはずで、喋れるから好きということもあると思いますので、「語れるまち名張」、「愛するまち名張」というようなスローガンになるのかなと事務局としては思っておりました。

順番が逆になっているのは申し訳ないと思います。

(委員)

先ほどお話があったように、最終のゴールが理念の部分だと理解はしていて、それであれば、「誇れる」というのが最終ゴールでいいと思うのですよね。

その次に、将来像「ビジョン」だと思うので、その一つ手前の「愛せる」というのがポンと上がっていく段階なのかなというイメージができるので、何かそういう使い分けができれば。今のキーワードは好きだなと思います。

(会長)

そうですね。今の話であれば、10年後の将来像「誇れる」でもう完成形で良いのではないかと。

ただその前の段階にもし基本理念やあるいは現状の認識があるとする、「愛する」とか「大好き」ということが入ってこないということですよ。まず「好き」が先、理屈としては一緒ですね。だから今後、基本理念がもし出来てくると、そちらの方に例えば「愛せる」というものが入れば、こちらは「誇れる」でも良いということですよ。

(委員)

逆かなと思います。理念が最初にありたい姿であればそっちが「誇れる」であって、手前のビジョンが「愛せる」かと。

(会長)

わかりました。

おそらく前回お示した基本理念とも相当変わってきたので、これから事務局でどういった理念でいくかということを相談しながら作ろうと思うのですが、やはり成果はどうか、活力、それから自分たちが好きなまち、こういうところをニュアンスとして入れていくのかなと思います。ですから、比較的理念も将来像に近いような形になると思います。

もし理念があるのなら、こちらは愛せるでもいいのではないかと。今そのような意見も出ましたが、他に何かご意見ありますか。

(委員)

皆さんいろいろ意見を出していただいているのですが、10年先20年先の将来を見渡したときに、マスコミなどにも流布されているように都市の崩壊。誇れるとかいうような余裕がない都市、市町村が増えていると思うのです。町として成り立たない。

そういうようなことを前提に考えると、遅れるとかそういう他人事ではなく、もっと我々の住んでいるところの都市機能を確保していくような視点で、危機意識を持ちながらアピールしていく文言の方がむしろ現実的ではないかと思っています。

(会長)

現実はおそらくそうですよね。それに対してどう対応していくのか。

(委員)

ですから「誇れる」とかそういうことではなくて、もっと自分のやれることをみんなで行動し、それで名張を盛り上げていこう、維持をしていこうということの方が現実的だと思います。

(会長)

わかりました。確かに現実論で言うとそうですが、一つのキャッチフレーズに近い将来像と考えると、みんなでどうやって名張地域を活性化していくのがメッセージとして入っていることが大事だと思います。

ただ、「誇れる」はまだ少し先で、そこより前にやることではないかというご意見が出ています。

(委員)

そうですね。私も知り合いの方から色々聞いた中で、農業の問題。畑を借りたくて話をお聞きすると、米作りの大変とかで、誰かがやらなくなると、周辺の人が手伝って、田んぼを耕すなどで何とか維持をされてるというような状況ですよ。で、あの人も病気でできないとかの話でね。

その話が頭の中に残っていて、そういうふうなことを考えると、もっと危機意識を持った方がいいのかなと思うのです。

農業の例を出しましたけれども、本当に思ってる以上に田が荒れてますね。名張は少なくとも。ちょっと論点がずれたかもしれませんが。

(会長)

分かります。現実としてはそういう評価なので、これ具体的な政策に全部それぞれ落としていくという形になります。他、これについてはご意見いかがでしょう。

(委員)

私は、関西から30年ほど前にここに来て住んでます。「誇れる」は、長く文化や歴史があり、そのいいところを受け継いでいってるだろうけれども移住者としては分からない。私にとっては、30年40年前の現状と今の比較になる。ここはいいまちだな、これ気に入ったという感じで、「誇れる」という言葉がずっと落ちない。良い部分が守られているのと、誇れるというのは、逆の方の悪い意味で言うと、自分中心みたいなところに陥りやすい言葉だと思います。

これからは間違いなく、色々なことを広い範囲で考えて進めていかないといけないと思うので私は「誇れる」は私たち中心のような印象があるので、「愛せる」の方が好きですね。

(会長)

そうですね。

いろんな方がいらっしゃるんで、その「誇る」と言われても多分その温度差がいろいろある。

「好き」とか「愛する」とか比較的皆さんそういう意見の方が多いですね。例えば「魅力ある」でもいいですが、やはり名張のことが好きというニュアンスですよ。

(副会長)

その「好き」が束になっていかないと名張を誇れないと思います。

(会長)

最終的にはね。

(副会長)

「誇れる」と言うには、皆、まちじゅう全部が色々な事すべて愛していかないと、好きになっていかないと、誇れるまちになっていかないので、やはり一番先に優しい言葉から入ってみんなに徹底して、10年先は誇れるまちにしていこうという言葉がいいのかなと。「変化を起こし」だけでも結構今までの目標からすると、インパクトが強い言葉なので、強い言葉で押していくと、ちょっと反発しなくなってしまう。

(会長)

「誇れる」になると強くなる訳で、「愛する」とか「大好き」とか「魅力ある」の方が。

(副会長)

「変化を起こし」だけでも、今までの優しい標語からすると、ものすごく変化があるところに、また「誇れる」は偉そうな気がするので、ここは強い言葉があつて、ちょっと優しい言葉がある方が良いでしょう。

(会長)

「愛する」とか「愛せる」という表現を使うと、市民意識調で「あなた自分のまちが好きですか」との問いがあつて、10年後に100%が目標になる。だから、今どれぐらいなのか分かりませんがそういう調査はありますか。市民意識調査で自分の住んでるまち名張が好きかどうか。

(事務局)

意識調査で満足度調査があります。名張の場合は8割をちょっと超えるような状況です。

(会長)

今の皆さんのニュアンスだともっと低いと思いました。もっと数値を上げるニュアンスをイメージしたのですが、比較的數字化できる部分もあるので、例えば10年経った時に、その數字が90に近づいていくのが大事だなと。

いわゆる「好き」とか「愛する」とか「魅力ある」とか、そういった表現の方が良くて「誇れる」は、今のニュアンスだと強いのかなと。

では、骨格としてはこの形でいきたいと思います。変化を起こすこととして、みんながまず名張を大好きになる。それからでないといけないところがあるところを将来像の中に溶かし込まれるということになります。

次ですが、今度は基本施策、重点施策の骨格の部分ですが、事務局が特に頑張ったのは動詞をまず全部調べまして、動詞から始める。これなかなか他の自治体がやっていないことで、普通名詞で始まっていく場合が多いんです。項目で分けていく場合。名張の場合、先ほどから「動的」っていうことが出てきますが、動きを一番イメージしやすいのはやはり、動詞なんですね。ですので動詞で施策を分類するという。自治体としてはかなり意欲的な取組をされてます。

さらに色ごとにそれぞれ意味があり、これも事務局案ですけども、レインボーカラーでは必ずしもないというお話ありましたが、例えば「ささえる」「すすめる」「つくる」「つなぐ」「ととのえる」「はぐくむ」「まもる」「おこす」とありますけれども、それぞれ事業ですね。細かな事業ごとに、これ分類をして、それぞれ、「すすめる」、その別に配布した縦の細長い紙ですね。

それぞれにぶら下がっている事業ということになります。施策ですね。

これを、7つの動詞で分類いただいたということで、全施策が網羅されてるということになります。

細かく見ていただいて、こちらの方がいいのではないかとか、このままで良いのかなっていうところもあるかもしれませんが、事務局案として見ると、比較的数としてのバランスは取れてると思う。極端に少ない多いというのはあまりなくて、どこかに入ってる。

ちょっとおかしいとか、こっちの方がいいとかがあればまたご意見いただきたい。とにかく7色に分類してるというところになります。ちょっと字が小さいですが。

総合計画は、基本的に施策や事業に分類するところも一つ大きなポイントでありますので、今回はこの7つの施策をあえてレインボーカラーにしないということも良いですね。他の自治体ではレインボープランというのがありますがレインボーは使わずに、動詞で7色。これがまず一つです。

これでいいかどうかですね、動詞はわかりやすい、わかりにくいがあると思いますが、すべてひらがなで書いていただきました。これがどうか。

もう一つは、7つの施策となっておりますが、重点施策「おこす」は、今外に出してあります。これは皆さんからご議論いただきたいと思いますが、7つの施策に入れずに、特別に外に出してはどうかということで、今、事務局案として外に出してある。これは名張として特に力を入れていきたい。

だから、赤い色で、しかも情熱、エネルギーを表すカラーで、ここを重点的に力を注ぎますということです。これから皆さんにご意見をいただきたい。あえて一つ外に出してあるつくりになっています。7プラス1。まずこの構成はいかがでしょうか。

これは前回の総合計画とは大きな変化ということになりますし、市長が変わったこともありますので、この思いとか考え、動詞というキーワード。三重県では多分ない構成ですよ、動詞を使っているところは。私も調べてみましたが、ないと。名張が初。全国的に見てもかなり珍しい。それだけ動きというものに注目した。あと変化ですね。

この総合計画、明らかに動きを、例えば「はぐくむ」んです。「すすめる」んです。「つくる」んです。「つなぐ」んですというふうに。

そういう動詞として。これ非常に実践とか実行というところで、特化したつくりになっています。普通は、例えば福祉とか、よくある行政の様々ある縦割りのつくりですけど、今回動詞です。

これも皆さんから出てきた意見をまとめた結果です。どうでしょうか。

(委員)

非常に、これ見るだけで興味が湧く。育むって何を育むのかなという風にもう一つ、奥に入りやすい。これを福祉とか教育とか、難しい言葉を入れてしまうと、それに興味がないとそこから見ないんですよね。非常にわかりやすくして良いと思います。

(会長)

例えば中学生とか高校生もこれなら興味を持ってもらえるかもしれない。

(委員)

何してくれるというような、もう一つ先を見ないと分からないので興味を持ちやすくなるのではと思います。

(会長)

はい。ありがとうございます。

(委員)

事務局にお尋ねしますが、どこからこれを発想しましたか。話し合ってる3回目から、こういう

流れが出てたのですかね。

(事務局)

3回目で出てました。すべて、今までの審議会の会話や審議内容から組み立ててます。1回目、2回目とは全然違い、3回目に大きく変わったので。

(会長)

それで事務局困ったのですよね。3回目でガラッと変わったので。これどうしようかと。今までの全部ね。

(事務局)

2回目に、名張高校の生徒に入っていて10年後の姿を書いてもらったところからの議論で、委員から「静」より「動」の方が良いということから「支える」と「育む」という単語が出てきて、それから「作る」という単語が出てきて、そういうところから動詞でまとめましょうというもの、会長から話もありましたので。

(会長)

動詞は他にもあるからまず動詞を全部、国語辞典とかでいいから全部出してもらって、その中で、ある程度、事業との整合性もあるので、言い方悪いですけど使える動詞、使えない動詞いっぱいありますから。多分苦勞されたと思います。

7色に色分けするところも含めて事務局にはかなりご尽力いただきました。

(委員)

「主な取組」ということで、多分皆さんご存知だと思うんですが、私だけかもわからないですが、上から三つ目の「DX社会」とありますよね。これ皆さんご存知かもしれません、私はスマホで調べました。DX社は何だろうと思いました。その下の「ささえる」に「フレイル対策」もスマホで調べました。よく分かりませんでした。で「サルコペニア」。筋肉の衰え、いわゆる痴呆症に陥るから、健康な人がいて、フレイルがいて、要介護。で、フレイルで留まろうと。要介護の、社会的な資産とか、時間とかね。フレイルでがんばろうと。それがフレイル対策かなと。それをスマホで見て初めて知りました。だからこの資料は、そういう意味では良いなと思いました。

(会長)

主な取り組みに書いてある細かな事業については、おそらく、わからないことがたくさんあると思いますので、最後のページに脚注という形で、説明を。例えばDXは一般市民の方は多分わからないと思いますのでデジタルのことなんですけど書いていただけますよね。

(事務局)

今おっしゃっていただいたように横文字やカタカナ文字、専門用語については言葉の意味を。

(委員)

社会的な認知になれば当たり前になるのですけどね。例えばIT革命とか。

(会長)

おそらくここに書いてあるわからない言葉はページの下か最後か、ちょっとわかりませんが、まとめていただきます。

(副会長)

フレイルについては、医療福祉総務室とかその辺から認知症予防の対策で、筋力の衰え、それを防ぐための運動とか、地域回って説明してくれてます。

(委員)

高校生や一般の方見たらわからないかなと思ったので。

(副会長)

最近テレビでも時々、「フレイル予防の体操をしましょう」とか、出てますよね。

(会長)

あと皆さんちょっと注目いただきたいのは、この動詞と施策との整合ですよ。例えば「まもる」とか「ささえる」とか色々ありますので、これここでいいのかどうか。細かいので、これまた今日難しければ、事後でも構いません。

(副会長)

でも、これは今までの市の政策を見た中で割り振りしてくれてるのではないですか。

(事務局)

そうですね。ここは何も漏らさないようにすべての事業が入る形で割り振っているのが実情です。

(会長)

どこかに入ってるのですね。

(事務局)

どこかに入っております。

(副会長)

どこが悪いとかは、動かしたら担当部署が変わってくるような気がするのですが。

(事務局)

それはまた別の話になりますので、明らかに違うというものであれば指摘いただければありがたいです。

あと一つの施策でも、「すすめる」だけではなくって「まもる」であったり他のもあったりしま

すので。ただ、よりどちらの要素が強いかということで、他のバランスも見ながらですね。ちょっと整理をしてるところで。これ、こっちの要素もあるのではとか多々あるとは思うんですけども。

(会長)

例えば「つくる」で「環境負荷の少ない社会を作る」は「環境を守る」とも言えるわけで、そうすると「まもる」要素もあるけれどもあえてこれは「つくる」の方に入れましたということ。

(事務局)

そういったものもありますので、見方により、色々な施策の区分になると思います。

(会長)

今時点で何かありますか。皆さんに今日議論いただきたいのは、重点プロジェクトについてです。先ほど申し上げたようにちょっと赤で「おこす」ということで外に出してある。

まずこれ一つ外に出すという方がいいのか、それともこの輪の中に、重点プロジェクトを入れてしまうという考え方も一つあると思います。今7個が周りにありますが、どちらが良いかという点が1つ。

それから「おこす」は何を重点プロジェクトにするかですが、今までの議論では、皆さんから出た意見でいうと、まず一つ「観光」は、大きなテーマとしてありました。観光や、まちづくり、特に若者が主体的に参加できるように、やっていくべきだとか。

それから市長も常々言っている「シティプロモーション」ですよね。この点も一つ重点プロジェクトの候補になるかもしれない。

ただおこすというキーワードは、まとめると何々を起こすのかという形になるのですが、重点プロジェクトのあり方や作り方も皆さんご意見いただきたいです。

重点プロジェクトだから、すべてのプロジェクトに今先駆けてこれをというイメージですので、一つを出した方が差別化できて良いと個人的には思います。中に入れるのも手ですよ。ただ真ん中に入れるのはちょっと違うと思いますが、どう思いますか。

(委員)

これ分けて出した方がいいと思いますが、分けて出すとこれに対する重圧というか、イメージが非常にかかるのかなというところで、実際何をおこすっていうところを本当に明確に出さないと10年後に何も起きてないということになる。

(会長)

一番言われるところですよ。何にもおこしてないと。

(委員)

ただ、わかりやすいところでいくと、離れた方がいいのかなと。

(会長)

そうですね。どうでしょうか。せつかくの重点プロジェクトですから、これ一番目立つところで、

外に出すという案もありましたし、今のお話ですとせっきく「おこす」というのを挙げている以上、一番皆さん見るところですから、しっかりと「おこす」。10年後には少なくともおこしているということですね。まず外に出すという点はよろしいでしょうか。

(委員)

先ほど基本構想で、「変化に対応する」か「変化をおこし」の議論が出たように皆さん「変化をおこし」の方が能動的で良いとの話もあった。その流れ、路線でいけば、「おこす」はキーワードですので、出した方がいいかなという気はあります。

(会長)

では7色プラス1色で「おこす」という意見が大半ですね。

問題は重点プロジェクトの中身ですが、例えば10個も20個も「おこす」を並べてもなかなか難しいと思いますので、いくつかになるとと思いますが、今までの議論を総括するとまず「仕事」が一つキーワードである気がします。若者が働いて、暮らすということになると、ある程度仕事づくりという話が出ましたけれども、仕事をおこすという表現がいいのかどうか。

働く場とか仕事とか、それからやっぱり観光ということになると名所とか、そういうことだけではなく、そこで採れる食や、農産物、お土産、様々なものが入ってきますので、そういったものを例えば新たに開発するとか。

新たにこれをブランドとして、それを盛り上げていくとかそういうことになるんですが、これも「おこす」という表現で何かできるといいなと。観光政策に役立つような。

(副会長)

観光産業。

(会長)

「観光産業をおこす」。色々な例えば物ですね、そういうものをおこしていく。

(副会長)

健康志向が多くなってきている中で、テレビで言っても、本当にお年寄りが、無添加のこんにゃく作りをしたりして地場産で売ってるのがテレビで最近特に増えてきて、活気づいているところがたくさんある。名張でも名産が少ないというけど、美旗メロンとかブドウ、ブドウは青蓮寺もありますけど、色々なことをしていますが、今はじり貧になってきているようなことをもうちょっと改めるとか、それから今、赤目でやってます「竹灯り」ということで、竹灯りだけと最初は言ってたんですけど、竹は筍から食べてももっといっぱい利用ができることがあるということで、食品から装飾品までを、考えて作るプロジェクトができてきているので、そういうふうな名張で埋もれた産業というか身近に取りかかれるようなものを探してみんなでしていくというプロジェクトができあがれば、もっともっと名張は発展するのではないかと思います。

(会長)

この委員会でも地域資源を活用した話は出ていました。今まで埋もれていたものや、なかなか知ら

なかったものを生かして、先ほど言ったように一つは仕事ですよね。それからもう一つは何か地域の特産・名産にするとか。

(副会長)

名張はまだまだ伊賀米、伊賀牛など全部「伊賀」なので。「名張」で売り出してるものが全然ない感じがするので、やっぱり名張の特産をもっともっと作ることも必要と思うので、皆で考え、若い者の意見とか、年配の方の意見とかも取り入れながら、産業を考えていく時代が来ていると思う。

(会長)

いいですね。

(委員)

7つの項目ですが、書き出していただいたように基本的には現在までに何らかの形で着手しているものが7つで、あえて一つ外に出す。この「おこす」というのは、インパクトがある。今までにやったことのないようなことを市民に向けてアピールをする。

やらないと大変だが、現実はある以上に、じり貧で、企業でいうと赤字。将来が見えないような状況だというふうに踏まえて、全く新しいものを見つける気持ちで、この「おこす」というものは、イメージとして作っていた方がいいと思います。

(会長)

そうですね。全く新しいものというよりは、考え方としては、優先度高いのも含めてですね。

(委員)

仕事の話がでましたが、そういうものを切り口に柱としてね。

(会長)

この下に施策がぶら下がるので、まずは「おこす」の部分ですね、これを例えば、3本とか4本ですね。2本3本4本立てて、その下に、こういうことをやるという具体的な書き込みをする。

(委員)

前回は申しあげましたけれども、多気町のヴィゾンもそうですけれども、項目の一つとしてねドンと出せるものを、ここで出すべきではないかなと思います。

(委員)

観光でいうと、今までイベントはほとんどなかった。以前大学生とか高校生の音楽イベントがあり、たくさん集まり、食べ物も色々なものが出て、色々な需要があったと思いますが、この前ADSホールでゲッターズ飯田さんのイベントがあった時に、イベントのパンフレットを置いてくださいと言われて置いていたんですけど、イベント当日は名張の駅前がびっくりするくらいの人だった。

ハードのものはなかなか難しい。ホッケー場はできましたけど。ゲッターズ飯田さんの日はホッケーもイベントも重なっていて、どの飲食店も満員。イベントがあるとまちに人が集まる。駅前だけで

なく、東町などの飲食店やお土産屋にも人が入っていたと聞き、やはりまちに人が来てくれるには産業の発展というか、観光協会も、商工会議所も、色々なところががんばってくれてますが、スポーツイベント、音楽イベント、街道市も含めて、市内ではなく、外から人が来てくれれば特産品が売れ、色々なことができる。それから観光大使にがっかりしています。こないだのテレビ。

(会長)

名張出身ですよ。

(委員)

結構人気あるのですが、名張市の特産品をかたやきと発言して、そしたら書き込みに「かたやきって伊賀やろ」。それから、次に言ったのが松阪牛。伊賀牛ではないのかなと思いました。全国ネットの番組で名張の観光大使として、名張市の旗掲げて出たのに。普段から名張出身と言ってくれているので、もっと名張のことを伝えないと、と思いました。そういう人たちにも協力していただきながら色々なことをしていきたい。

(会長)

観光に関わることは1つ入れてもいいかなと思いますが、ただ「おこす」の前につく言葉は基本名詞になる。何々をおこすになるので、名詞となると、かなりシンプルな表現になるのかなと。

だらだらと書いて「おこす」とやるよりは、その下に細かく、例えばこういうことをやるという具体的なもの。先ほど色々危機感もあるということですから、それを乗り越えるため、こういうことをやるという具体性があるものを書く。シンプルな名詞の方がインパクトあると思います。

今「仕事」の話がありましたが、「仕事」、「業」ですよ。「業をおこす」、「職をおこす」、「ファンをおこす」、「にぎわいをおこす」。そういう表現の方が良いのではないかと思います。そしてその下に具体的なことを書いていく。賑わいは集まることですよ。本当は地域資源を生かし、それを観光集客に結びつけていく形がいいのかもしれないですけど、一言で言うと「にぎわいをおこす」。その中で観光とかを入れる。

あとはそのブランドという意味でいうと、先ほどの「食」は、農業にも絡んでくるし、観光の産品にも絡んでくる。食の新しい地域ブランドとか、そういうものを作るのかなという気もします。

仕事でいうと「業」。「仕事」でも良いが新たな働き場所とか、例えば起業の業でもあるので、「ぎょうをおこす」ってなった時に、「おこす」を漢字で書くと、一つは興味の興も「おこす」ですし、起業の起も「おこす」なので、両方使える。若者の起業支援もやるし、あるいは働く場所を作るとか、そういう形で作った方がわかりやすいという思います。あとは、どんなものを「おこす」かですけど、いかがでしょうか。

一つ気になるのはファンや名張を本当に愛してくれる人、市民だけじゃなくて、外にもファンを作りたい。市長の思いとしてプロモーションという考えがあって、もっと名張の情報を広く発信して、みんな「名張はいいところじゃないか」とみんなが思ってくれるようなファンを増やしていかないと。

(委員)

名張推し。

(会長)

そうですね。

(副会長)

伊賀市に比べて発信力が弱い。

(会長)

それをよく言われますね。皆さん。PRがあまり上手ではないと。

(副会長)

伊賀市長は早くから先手を打ってやっている。外に対して名張を売り出す。

(会長)

そういうニュアンスも一つ欲しい気がします。情報発信の視点ですよ。7つの取り組みの中にも情報発信はありますか。

(事務局)

はい。「みんなを名張市の情報でつなぎます」ということで。

(会長)

情報発信は入ってるんですね。

(委員)

ちょっと話戻して悪いですが、「おこす」が新規事業で、ここに書いてあるのが今までの事業ですか。仮に色塗りをして、これは新規で、これはこれまでやってきた事業を継続していますという話であれば、これは全部、維持発展していきますという事業ですか。

(事務局)

まず基本構想は10年、基本計画は前期後期ですが、4、5年先を見据えたときに、各事業を各部門がやっていく内容を落とし込んであります。

今までやってきたことというよりも今後5年見据えてやろうとすることを書いてあります。新たなものというよりは、行政として通常やることを書いてあります。

(会長)

行政としては、継続性もあるので、今までやってきたことで、今後5年ぐらいは続けていきますというもの。ですから全くやってないのには書いてない。新たに始めるものは書きづらいと思いますよ。行政は。

(委員)

ということは、各部局は、これをもとに今後の仕事が決まるわけですか。

(事務局)

これをもとにというか、ある意味大きい分類でいくと、これは決まってると思っていただいて、次の重点施策のところは、今後、新たに取り組んでいく部分というイメージを持っていただければと思います。

(会長)

もっと言えば、同じ内容でもいいと思っています。この「おこす」にかぶっても特に重点プロジェクトですから。この中にあっても、特に力を入れていく。おそらくどこかの担当でやることになる。そこに書いた以上。だからそれをより重点的に進めていただくということで、例えばシティプロモーションを入れても。こっちにあるからこっちに入れる必要ないということは全然ありませんので。

(委員)

「おこす」が新規事業になるわけですね。

(会長)

新規事業なるかどうかは分からないが重点的に取組もの。だからかぶることも大いにあります。

例えば「仕事を作る」という点にしてもどこかに多分あると思いますが、重点プロジェクトの中に落とすことに意味がある。

(副会長)

だから市長も公約で、観光産業で雇用を作ると言っている。

(会長)

そうです。雇用についても触れてましたね。シティプロモーションも最初おっしゃったので。

(副会長)

そのような言葉を「おこす」の中に入れるということですか。

(会長)

皆さんが例えば10年後の名張を想定した時に、これは重点プロジェクトとして入れた方がいいということがもしあれば。いかがでしょう。皆さんのそれぞれの立場で。

(委員)

「おこす」について、例えば観光であれば既存の観光にプラスアルファも良いのですが、情報発信が少ないとか多いという場合に、「おこす」は新たな集客装置を作って、観光、賑わいをするという意味で、集客装置として「おこす」。そういうイメージでとらえた方がここはいいと思います。

(会長)

その通りです。ただ名前はこれでいいかはありますが、新たな集客の方法をここで起こす。今まで

の延長上だとこれ以上。

(委員)

情報発信だと限りがある。だから、新たなインパクトのある仕掛け、集客装置を作るべきだと思います。

(会長)

重点プロジェクトにあれば、多分予算がつくと思います。確実に。ここに載るということは、行政としては、しっかりやるという担保にもなる。ですから、ここに載せることはすごく重要なこと。

ぜひ皆さんの中でこれはというのがあれば。今、一つ観光、集客に関するものは「おこす」の中に入れてほうがいいのではないかと思います。

それから情報発信が弱いということもありましたし、名張をもっとみんなに知ってもらう。もっと言えば、名張を愛する人やファンを増やしていく。これ非常に大事なことです。

それから仕事づくりでは、ここでも出ましたけれども、働く場所がないと、若い人がどんどん大阪の方にも出て行ってしまう。これを防ぐためにも、魅力的な仕事、働き場所、そういったものをこの名張で新たに作るということが大事ですね。

(委員)

個人的感想ですが、全体の中で、子育て支援が施策の中に埋もれてるのかなど。名張の売りは子育て支援というぐらい、全国から視察が来ることをやりましたが、少子化でほんのこの5年ほどで、出生数が半分以下になっている現状。市として、子育て支援のアピールはもう、私からするとなくなったかなと思うぐらいに、少し下火になっている。現状追認していくような状態で、このままでいくと、ますます少子化が見えてきてるなと思う。もう本当に減ってます。

そういうところが、こういう重点プロジェクトの話でいくと、新たにおこす事業ではないですが、ここでもう1回打ち出すぐらいの気持ちがあっても。特定の世代にしかアピールはできないかもしれないですが、その人たちにはアピールしたい部分があります。ちょっとその辺を入れることはできないかなど。

(会長)

確かに今までの皆さんの話を聞いてると、福祉とか子育て支援を名張はしっかりやってきた面があるので、あえて皆さんあまり意見が出なかったのですよね。初回の審議会の時に付箋で皆さんから意見を出していただいた時にもものすごく少なかったのが意見が。皆さんに聞いたら、よくやってきたと名張は。これまでの経過の中でも、特に福祉・子育て支援っていうのは、名張は重点的に取り組んできた。

(委員)

それで多分他市からも移住もあり、数字的には上がった。今は多分、じり貧どころかダメかなど。

(会長)

だから一つ子育て支援というと子どもを増やすのは、自然増ということで、子どもを産みやすい地

域という、流出しない、そこに留まってくれるとかよそから人が来るというニュアンスも入ってくるので、逆に言えば、若い人たちが定着してくれるような、例えば仕事、働き場所、これも実は子育て支援と大きく絡んでいるわけですね。だから子どもを産み育てやすいプラス、出て行かずにここで働いてもらい、生活してもらいまちにしたいという思いですね。

(委員)

そうです。

(委員)

そこをちゃんと押さえたら、また人口が増えてくるかもしれない。

(委員)

明石市はだいぶ人口が増えている。

(委員)

すごくやっぱりインパクトがある発信の仕方をしている。

(会長)

明石市は、一言で言うとインパクトです。

市長もそうですし、書き方も「負担をゼロにする」とかですね。そういう宣言をポンポンとやっていくんですけど、あれもおそらく重点プロジェクトに入ってると思います。子育て支援を入れて、やっていこうと。

だから名張として方向性をどこに置くかですが、あんまり数を増やすと、逆に言うと、そういった鋭さがなくなっていくので、どこに絞り込んでいくかということになります。明石はうまくやりましたね。あれも一つのやり方ですね。子育てを全面に出すのであれば、それはそれで良いと思いますが、そうすると今までとの施策の違いとか、差がなかなか出にくいのかなと思います。

他にいかがですか。一つ人口減少対策がありますね。今後人口が減っていく中で、どうすれば他所から人が来てくれるか、ここに留まってもらえるのか。特に子育て支援でファミリー層や若い人たちに名張に留まって働いてもらう、活躍してもらう、こういうような場を作らないといけないですね。

これは一つ「おこす」にそういうエッセンスを入れてもいいのかなと。それが仕事になるのか何なのかはちょっとわからないですけど、若者の活躍の場ですね。

あとは「業」とか「仕事」も、先ほど二つと言いましたが、一つは起業で、自分で業を起こす方、作り上げていく方、それからもう一つ新たな、例えば大きな工場とか、働き場所の誘致というところも、そこに入ってくるかもしれません。それも一つ名張としては必要なのかなと。僕もいろんな名張の若者の意見を聞くと、同級生で出ていく人が結構多い、なぜかという「働く場所」と答える方が一番多い気がするので、これどうですか。実際、出て行く人の理由としては。

(委員)

大きな会社が名張に少なく、大きなところでいくと、当然ながら工場系が主なものになっている、若い子が起業する、自分で業を起こす数が、商工会議所が支援はしていますが少ないのかなと。

三重県だけでなく東海ブロックで集まる機会があり、恵那市は人口5万人ぐらいですが商工会議所青年部のメンバーが100人以上いるんです。

それはなぜかという、商工業の中でお金が潤沢に回っていると。商工会議所の青年部に入ったら、例えば飲食店だとそのメンバーがこぞって店を利用する。農業系だと商工会議所のメンバーが、その農業のところのお手伝いをしていて、それで潤沢に回ってて、人口5万人程度で、100人を超えるのはなかなかない。45歳までで100人以上集まるのは非常にまれなケース。いろいろ聞いてたら、やっぱり商工業で、恵那市全体として商工業をどんどん回していこうという動きがあるので、非常に活発になって、新たに起業するメンバーも多いというのを聞いている。起業した後の支援体制ができれば、若い子らも自分で商売を始めて、その後そういった団体に属していれば、横の繋がりがあがる。

そういうものを作れば、比較的自分で仕事を起こしやすいのかなというのを感じました。

(会長)

「三重で起業するなら名張」とかいいいすよね。

(委員)

そうですね。

(会長)

「仕事を作るなら名張」、「業を起こすなら名張」みたいなキャッチフレーズで起業家全部集まってくるから。

(委員)

そうですね。だから働きやすい環境が。

(会長)

集まるとネットワークができますからね。そこにね。そうすると、若手のいろんなサービスビジネスも出てくる。面白いですね。恵那市がそういう取組やっているのですね。名張より人口が少ないにもかかわらず若手で100人以上の起業家がいらっしやる。

名張もそうすると、何かちょっと成功すると出て行くみたいな話ですよ。その逆ですよ。こういう取組があるということですよ。

それからもう一つ「食」も名張は今までアピールがなかなかできてなく、伊賀に持っていかれている話がありましたが、食は、観光だけではなく、農業や様々なところがあり、三重県にフードイノベーション課があり、やはり食は一つのビジネスのきっかけになる。しかも、さっき言った横の繋がりで、色々な事ができる場所でもあるので、物を生産してそれを加工してそれを販売するすべてのビジネスがそこに入ってくるから、「食のまち名張」とかそんな形にするとか。「食」は私たちは飲食店をイメージしますが、そうではなくて、素材から加工から販売まで全部一貫して名張は非常にいい取組をしているというのは、すそ野が広い産業の育成にもなるのかなと。

今まで名張は産業に力を入れますなどの宣言をしたことがあんまりないと思うんですよ。例えば医療なら医療産業集めて本当は戦略的にいろいろやる必要があるだろうし、多分「食」は名張に非常に良いのではないかと思います。どうですか皆さん。農業というイメージはありますが。「農業

のまち名張」というのも。

(委員)

自分自身がオーガニック食材にこだわって生活していますが、伊賀地域はオーガニックで野菜を作っているのが結構盛んなんです。でも、名張はあまり意識が向いてない。

(会長)

そうなんですか。

(委員)

はい。結構農家はあるので、国も今、例えば学校給食も有機食材を使うような方向を打ち出してたりしていて、でも、全国的には絶対的に有機食材が足りてないのが現状ですので、ここで言うてどうという話ではないんですけど、そういう一つの今の流れの先端を取り、「食」というところをポンと打ち出す。今治市が10年、20年前にそれを打ち出して、市長が代わりちょっと状況変わりましたが、学校給食を地元の有機食材だけで賄う。そうすると全国から視察が来ると。それでまた一つの大きなイベントのような形で。今でいう道の駅みたいになり盛んになっていくということも聞いてます。

(会長)

道の駅もそうですし、それから学校給食もかなり変わりますから、いろんな意味で波及効果がある。

(委員)

何年か前に名張市もやりましたよね。滝之原とかの農地空いているところで、有機農業を遠くから来た一般の人に3回か4回かけて年間でやったりしてましたよね。今言われたように一生懸命野菜作っている人たちがいっぱいいて、海外の食の万博の時に。

(委員)

あの時は伊賀市がパッと出て。

(委員)

出たんですけど、あの時農林水産省の人は、名張市に来たんですよ。名張に若者で一生懸命作ってる人が多いっていうので、わざわざ名張市に来たんです。

(委員)

赤目に昔から自然農塾があって、大阪の方からたくさん人が来ています。

(副会長)

大阪から来た人が赤目や錦生に住み着いて、NPO法人立ち上げてくれた人とかがしてくれています。

(委員)

割と外向きなんですよ、名張の人が有機農業というわけじゃなくて。逆に伊賀市は有機農業の大きな団体があったりしてて。

(委員)

伊賀市の方が盛んですね。

(会長)

おそらくまだ名張の商工連携は、そこまでいってないのかもしれないね。

(委員)

何でこんなところに来てくれたのかと聞いたら、「名張市は若い農家の人がすごく多くなってるから来ました」と言ってたので、ああそうなんだと思いました。

(会長)

今の「食」ですが、やはりかなり部局横断的な取組なのですよね。そういうところにプロジェクトを入れるとすごくいいのかなと。つまり、どこにも当てはまらなくていろんなところが横断的にやらないと難しいものが「おこす」に入ると面白いのかなという気がします。波及効果が非常にあるのではないかと。観光というと観光だけになる気がします。

(委員)

そういう意味でいくと、「食」も「働く」ですよ。あと「旅」。これが観光に来ると思います。「旅」というキーワードで宿、飲食も、お土産もあればという横断的な繋がりもあるでしょうし、健康という意味では、もう今までされてきたので。

(会長)

健康も一つ、医療、福祉それからさきほどの食も入ってきますよね。

(委員)

そうですね。あとはもちろん教育ですね。教育と学び。学びというのは、教育の学びもあれば、僕たち市民側から名張市の歴史を学ぶということもあり、それこそ先ほどの観光大使さんに名張のことを学んでもらうとか。

(会長)

学校での学びだけではなくて、色んな意味で地域を知るという意味ですね。

(委員)

あとは創造の「創」、「創る」というところも、いろんなものを作り上げるところで、部局横断的に繋がり、それを共用する、シェアですね。

何か8つぐらいキーワードがあるなと思います。「働」「食」「旅」「健」「育」「共」「創」「学」。だからの辺を切り取ると、今のお話をお聞きしてて、横断的に、いけるのではないかなと。

(会長)

そうですね。もしおこすに落とすとなれば名詞の方がいいのかなと。例えば「学びをおこす」というイメージですよね。ただ、難しいのは難しいかな。学びとなると学校教育も入るし、それから生涯学習的なものも入る。歴史や文化も。これは名張として、重点プロジェクトに落とす必要があるかどうかですね。それぞれ入るのですよね、もう細かいところにはもう全部入ってるのであえて他よりも優先して取り組むものとして、入れるのが良いかどうか。

(委員)

「おこす」の最終的な目標は経済波及効果だと思います。いわゆる、人を集めることもそうですが、経済として、いかに活気づけるかになるので、そういう側面もいいかもしれませんが、目標としてどのくらい人口減少を止めるかというのもいいですし、それに対して人を集める目標をどのくらいにするのか。

例えば、「7万人を維持しましょう」でもいいですし、いやいや8万人にもう一回戻すとか、そういうところを目標に掲げると、どういう仕掛け・装置をつくれば、現実になるのかということで「おこす」の内容が非常に見えてくると思います。

だから目標感を持たないと、抽象的な話をしていたのではなかなか形が見えにくい。ちょっと私が焦り過ぎかもしれませんが、そういう観点で論議を進めた方が形になると思います。

(会長)

順序として見ると。まず何を「おこす」を決めてから、次にKPI、数値目標ですね。これはおそらく出てくると、じゃあそれをどこに置くのか。さらに言えばそれをどれぐらいのスケジュールでやるのか。

(委員)

先ほども出てましたが、例えば名張で人口減少が止まったのは近大高専が熊野から来た時に、そういう報告も載っていますよね。そういうふうには、企業の誘致とか、おっしゃってましたが、それも一つの手段なんで、私はどちらから進めるのがいいのか迷っています。

(会長)

難しいですよね。ただ、総合計画は最上位計画ですよね。具体的なアクションプランはその下にぶら下がって来る。

(委員)

来るんですけどね。その目標は人口減少となるということになれば、もう少し違うアプローチがある気がするので、できることをやる。そんなにたくさんできることはないと思いますが。

(会長)

だから、僕も先ほど言った三つぐらいかなと思っていて、一つは仕事、働く場所。それからもう一つは観光もそうですけど集客ですよね。人に来てもらう。最終的には後は、もしシティプロモーション

ンを入れるのであれば、発信、外の人たちに対して名張を知ってもらおうとか、それによって興味を持ってもらうことができれば、名張の経済効果も期待できる。

あと、「食」も今までそれぞれバラバラにやってたことが一つになれば、やがてそれが名張のブランドになり、集客に繋がることも期待できるかもしれない。

(副会長)

言われたように「賑わいをおこす」を入れると、全部そこにくっつくような感じがあり、名張の元気もついてくる。

(会長)

その下にぶら下がるものはいっぱいありますよね。

(副会長)

いい言葉だなんて。

(会長)

今までの皆さんの意見をまとめると「賑わい」が一つ。集客だとちょっと狭い気がします。

(委員)

集客も賑わいですし、人口減少も賑わいで戻ってくるし。

(副会長)

色々入ってくるかなと。

(会長)

だから、皆さんからむしろアイデアをいただきたいのはそこなのですよ。

やはり名張の今後10年を考えた時に、今よりも活気があって、非常に周りが生き生きとしている。そしてみんなに愛される。活力あふれるまちになっているために、重点的に今やらないとけないことを皆さんも考えてもらっています。

だから学びも別に排除するわけではなく大事ではありますが、目標に向けて重点プロジェクトに入れるかどうかは、またちょっと別になるのかなと。先ほどのご指摘のように。そうなると喫緊の課題は何かとなると、やはりそのあたりに集約できるのかなと。

あと一つは市長がおっしゃってるのは若者の定着定住。この議論の中で、ちょっとね、場合によっては若者だけに特化するはどうなのかという意見もありましたが、若い人がここに興味を持ってもらう、住んでもらったり、仕事をしてもらったり、活動してもらったり、それをしやすくするというのが、これから名張の10年後を考えた時に大事だと思があるので、それのどこに入れるか。仕事といえば仕事ですし、あとは活躍とか活動というと、賑わいになるのかもしれない。だからそのあたりですね。

(委員)

少し突拍子もない話になるかもしれませんが、経済効果とか、人を集めるとか、集客装置という話になると、おそらく伊賀市も名張市も同じような悩みにぶち当たっていると思うのです。

そういう観点でいけば、あまり好きな話ではないのかもしれませんが皆さんにとっては、伊賀市とタッグを組み、伊賀市の方が例えば25号線も近いわけです。おそらく用地確保についても何か仕掛けをするときに立地としては、向こうの方がいい点ももしかするとあるのかもしれませんが。

そういう点でね伊賀市と合同で、その人口減少に対する経済的な波及効果を狙ったものを。

(会長)

広域連携という意見が出てましたよね。

(委員)

広域連携について何ができないかというような論議するような場があれば良いと思います。そうすればかたやきの話も出てましたが、みんな迷わずにできて、全部これは伊賀市と名張市と同じというような感じで進められると思います。他から見ると、伊賀も名張も分からないですよ。

(委員)

伊賀市から名張に住みに来ている人結構多いです。私は伊賀市出身ですという人。

(会長)

逆よりは多いということですか。

(委員)

逆はあまりない。多分ない。名張から伊賀に住みに行くのはない。伊賀の人は名張に住みにくる。何かあるのでしょうかね。

(会長)

何でしょうね、近鉄ですかね。

(委員)

近鉄路線があるから奈良や大阪に行きやすい。伊賀はJRがあまり良くない。伊賀市から来ると便利なのでしょうね。多分病院とかそんなものも何かあるのでしょうかね。

(会長)

そうなる、やっぱり交通という一つ大きな課題になっていますし、今後車に乗れない人が増えてくると。

(委員)

30年40年しか住んでない人は、伊賀も名張も一緒なんです。区別しないのですよ、普通の会話でもね。というのは、その人が伊賀から来てるからね。「伊賀って別やからね」というともう会話が続きません。

(会長)

伊賀との関係は多分皆さん色々あると思いますので、私には多分計り知れない何かがあるのでしょうか。総合計画作る時に隣の市を意識するのは今まであまりないですね。

伊賀と一緒にやろうというようなことを書き込むことは、ただ広域連携とかね、多分伊賀という具体的なところではなくて、奈良県とも接してますから、そういう観光ということ考えたときには広域的な連携が非常に大事だということが一つ考え方として入っても面白いかもしれません。

重点プロジェクトに入れるかどうかは別として、そういう視点がないとなかなか難しいですよ。名張だけで単独でできることとできないことがあるので。

(委員)

もう観光では広域でやってますよね。

(会長)

実際はね。そう意味では一つ伊賀圏域を越えて、隣の奈良とか、もっと言えば大阪とか津まで広げて、今後万博もありますから、いろんな連携の仕方があり得るということも視野に入れながら広域連携というのは一つあり得ますね。他、どうでしょう。多分大事なこと。もし、そういう意見でも構いません。とりあえず、こういうことは、今後の、名張の人口減少やまちづくりで非常に大事になってくるような視点。今のような形で、広域的な連携と一つある。

(委員)

さっきの付け加えですけど、要はあくまでもこの名張で住んで、職がこの周辺でありますよという前提でお話してるので、大阪とかそういうのではなくて、あくまでも伊賀だと今でも通勤している人は非常に多いわけですから、そういう観点で、伊賀市と何か名張ではできない、いろんな用地がないと先ほど言いましたけれどもそういうふうな観点で、何かできるものはないかと。

(会長)

わかりました。

おそらく今後、重点プロジェクトに入るかどうかは別ということですよ。

(委員)

別ですが、そういうできそうな仕掛けの方からアプローチした方がいいのではということです。

(委員)

事務局の方、名張市と伊賀市が集まる共同の何か、会議みたいなものはありますか。

(事務局)

名張市と伊賀市、三重県の出先機関である伊賀の県民局と定期的に会議の場はありますし、先ほど会長もおっしゃっていただいたように、医療の面や、観光の面、そういった部分では連携はしておりますし、引き続きおっしゃっていただいているように、今後ますます人口減少していく中では、やはり

連携の強化は出てくるだろうという認識は持っていますので、そういった意味では、当然、この新しい総合計画の考え方の中では、我々事務局としても持ってるというところなんです。で、この黄色のつながりのところの下から二つ目「まちを次世代に繋ぎます」というところで、「周辺自治体との連携や、関西圏首都圏との連携を深めの広域連携に取り組みます」というところで、一つ周辺自治体との連携もここには入っております、伊賀市の話がたくさん出ておりますけども、周辺自治体ですので、奈良側もありますし、また、もともとは関西のベッドタウンというところもありましたので、少し大きな範囲というところで、ここに事業が入っております。

もう一つ、ちょっと話が戻り申し訳ないですが、「おこす」のところで子育て支援や、色々な意見を言っていたいただきましたが、このピンク色の「はぐくむ」。赤色から少しトーンが落ちたピンク色、ここには、子育て支援や、農業、経済、観光、また学校教育、生涯学習、ここの中身の取組が少し委員の言っていたところとは当てはまらない部分もあるかもわかりませんが、このピンクの部分準プロジェクトというか、色合い的にも赤色に次ぐ色になるので、そこを特出しすると、今度は赤が目立たなくなるのではないかと思います。

(会長)

これもご相談ですが、一つはこの順番ですよ。こう見ると重点プロジェクト以外のプロジェクトですが、比較的一番上に、他の自治体では、重点的なものを置く傾向がありますので、今は便宜的に「すすめる」が一番上になっていますが、順番はこれでいいのかというところも一つ。

これは別に「つながり」が一番下にあるから一番力を入れていないということではないですが、意外に総合計画は、一番上に、名張として結構特徴的なものを置く傾向がありますので、もし皆さん中でこれ一番上に置いた方がいいんじゃないかというものがあればご意見いただきたいです。

皆さんの意見を聴いていると「つながり」、「はぐくむ」あたりは、多い気がします。

(委員)

目指す名張の将来像で「動」のイメージになるので、動詞の中でも、「守る」とかを下の方にして、逆に「つくる」とか、動きがある部分を上にした方が流れとしていいのかなと。

(会長)

これでいうと、かなり動きをイメージするものだと「つくる」「つながり」「すすめる」とか。

(副会長)

「ささえる」とかは下の方がいい。

(会長)

「まもる」は下。

(委員)

その方が将来像とリンクしやすいのかなと。

(会長)

特に一番上は大事なので。これも今、意見が出ましたので事務局で、例えば動きのあるものは比較的上の方にあつたほうが良いというご意見もありました。確かに言われてみると、整合というか、この将来像との整合と考えた時に変化があるものを上にした方が目立って良いのではないかと思いますので、比較的「まもる」は、真ん中でも後ろの方でもいい、そういうことですね。

今まで皆さんいろいろご議論いただいたものは、具体的には主な取り組みの中に、今僕が聞いた限りはほぼ入っているはずなんですけど、先ほどから申し上げた重点プロジェクトは、その中でも、特に外に出すイメージなので、一つのポイントとしては喫緊性、すぐにやるというものもちろんですし、いわゆる部局横断的なものも、やっぱり外に出したほうがいいのかないかなという気がします。それからもう一つは先ほど目的、人口減少対策とか、経済対策に直接繋がるようなもの、効果が出やすいもの、こういったものを外に出すというところも一つある。

最終的に皆さんの意見を事務局の方とまとめさせていただいて、次回また皆さんにご提案することになりますが、我々だけの意見で作ってしまうのもどうなのかなと思があるので、市長とか副市長はじめ、事務局で色々なところを回っていただいていたと思いますが、これはまた次回に、どんな意見が出たかというのを示させていただくことはできますか。

(事務局)

そうですね。次回の審議会の時には、お示しできると思います。

(会長)

我々だけではなくて、他の様々な方々から多くの意見をいただけてますので、その中で特に多かったものや、これは重点プロジェクトに入れたほうが良いというものについてはここで入れていくことも一つあり得るかなと。

あとはいかがでしょうか。皆さんの中で、今日、重点プロジェクトの案を決めて終了とさせていただきたいですが。

(委員)

事務局の方にお尋ねしますが、これ、回ってましたよね。皆さん見ましたか。市民センターの中とか置いてますよね。「まちづくりの新総合計画を策定します」ということで、市民の方に知らせてますね。こ見があつたら9月30日までに書いてきてくださいとなっている。僕は期待してるんですけど何人か書いてきましたか？

(事務局)

100は超えております。

(委員)

そんなに来てるんですか。

(事務局)

ちょっと数まではまだちょっと、かなりの数になってますので。

(委員)

それも楽しみだなど。また教えていただいたらね、どんなことを書いてあるのか。案外これを知らない人もいて、近所の人も知らなかったけど、たまたま市民センターに遊びに行った時に置いてあった。それと広報にも出てました。やってくれてるなと思いました。

(会長)

おそらく次回に、市民の皆さんのご意見をまとめていただいて、この場で皆さんと一緒に見ていきたいと思います。それはおそらく次回いただけるのは、意見交換会ですか。

(事務局)

そうですね。今会長がおっしゃっていただいている、市内の若手の方や高校生の方と意見交換した主な意見内容も報告させていただきますし、次回また事務局として、今日いただいた意見や、意見交換会での意見も踏まえ、その辺りを、また、委員長とも情報共有して詰めながら、一定考慮した案といえますか、たたき台といえますか、それを事務局としてお示しできればと考えています。

(会長)

ということになりますので、主に意見交換会については若手の方と伺っています。若手という。

(事務局)

例えば名張商工会議所の青年部の方の皆さん、大学生のグループのところもありましたし、あとは青年会議所、農業者の若手の方、50前後ぐらいですけども、大体全部で8、9回ぐらい、高校生も含めてた意見交換会の議事録を、先週ようやく一通り終わりました。今ちょっと同時並行で進めておりますので。

(会長)

これまでの課題としては、市民アンケートとなるとどうしてもご年配の方が多いのですよね。圧倒的に60代70代の方が多くなってしまいますので、やっぱり若い方は直接市長や副市長が行って、お話を聞くことやらないとなかなか意見が取れないという問題がありましたので、今回複数回に渡り足を運んでいただいた、あるいは来ていただいた、直接意見交換をしたということですので、私どもの意見としては、そういった方々の考え方、意見はやっぱり見るべきものがある。つまり10年後の名張に住んでもらえるかどうかということです。

これは非常に大事だと思い、それを参考にしたいと思いががあります。次回はですね、それを皆さんと一緒に共有しながら、若い人たちは一体どのような考え方なのか、何を望んでるのか。この辺をち確認していきたいと思えますし、ご年配を初め、広い市民の意見はそういう形で多分、集まってくると思えますので、これまたそれで分類分析いただくことになると思えます。ですので、次回、そういう機会があるということですから、若い方々のご意見を中心に。

ちなみにですけど、今後のスケジュールとしては、次回、そういう形で皆さんと共有しますが、その先をもう一度確認してたいのですが。

(事務局)

次回、できましたら10月末の週でお願いしたいと思っております。12月に入りますと、もう総合計画がほぼでき上がってる形で、パブリックコメントにかけていきたいと思っておりますので、11月が、最終完成の月になると考えております。

それを踏まえると、10月の24、25、26日の中で開催したいと思っております。

ここで、もう少し事務局からの主な取り組みの部分も全部局に見直しの事務も進めていますので、ある程度でき上がったところもお示しできるかなと思っております。その次が、11月の半ばぐらい。

たちまちの予定としましては、この10月の24、25、26あたりで、先ほど会長からもご意見をお話いただきました通り、今日の見解も踏まえた中で、骨子案的なもの、時期的にはちょっと総合計画の骨子案的なものを皆さんにご覧いただいて当然意見交換会の内容もお示しながらですけども、この10月のタイミングでしていきたい。

あと、11月の下旬ぐらいにはある程度完成の案的なものを示しパブリックコメントを行いたいというイメージを持っております。非常にこの1、2ヶ月がタイトな状況ですので、できればもう1回11月ぐらいのタイミングで、上旬下旬中旬とどの時期か分からないですけど、11月にもう一度、させていただきたいというふうに思っています。それからまた、年明けも。

11月で一旦、形づくりパブリックコメントをしまして、それを受けて、その意見とかを、最終踏まえて1月中旬か下旬ぐらいにそのパブリックコメント後の意見、ここで最終になるかなっていう形です。

最後、諮問もさせていただいておりますので、会長の方からまた答申をいただくというような形で会長と副会長くらいになるかもしれませんけれども、そういう形で現時点では計画しております。

(会長)

今、皆さんの資料にある、こちらですね。これは大体どれぐらいのペースで埋まってくるかということですけども、まず形式ですけども、「まもる」とか「ととのえる」とか非常にこれ見やすく、例えば中学生でも、これ見て分かりやすいのでいいと思いますが、最後のページにある「まちを次世代につなぎます」。これが最終的なイメージですよ。

(事務局)

そうですね。「まもる」であればこれが6枚付いてきます。

(会長)

かなりシンプルですね。

(事務局)

今このページを、各部局に作ってもらっている状況です。

(会長)

これがやがて出てくる。次くらいですかね。

(事務局)

ちょっと厳しいかもしれませんが、11月には必ず。具体的に今見ていただいています、例えばつな

ぐの黄色のところがあるかと思います。このつなぐの、黄色のページのところで、右の方に四つ並んでと思います。この三つ目の「まちを次世代に繋ぎます」とあります。このシートが、この一番最後になるという繋がりですね。

(会長)

ということですので、ここにおそらく今イメージ図と書いてますが、SDGsの項目と書いてあるので、ここにSDGsのマークが配置され、それから色も多分、これに合わせて、配色なんかも工夫いただけたと思います。それから関連する計画とか取組の評価。これも入ってきますよね。具体的に完成したらおそらく皆さんに。

(事務局)

そうですね。最後のページは、11月の中旬ぐらい、次の次ぐらいで整えたいと思っています。

(会長)

ちなみにパブコメをかけるのはこれも含めた全部ですよ。パブコメというのは、皆さんご存知だと思いますけど市民の皆さんがそれを見て、いろいろと意見を言うということになります。

作り方もこれ、すごく色が明るくてきれいなので、またこれでき上がったところで皆さん、次の次というお話でしたから、お示しいただけたと思います。それでは、最後に何か皆さんから。

(委員)

ちょっとすいません。「おこす」のところでこだわって大変恐縮ですが、それとおそらくこの場で論議するようなことではないと思うので、ちょっとあえて一言申し上げたいですが、民間企業的な発想で具体案をどんどん出していく傾向があり、ちょっと申し訳ないなというふうに思っていますが、例えばこの「おこす」に関連して、名張市の組織の中で、「おこす」ということについて、重点的に推し進めるような、そういう部署をつくりませんか、この中にあっていいのかなと思います。

例えば、前回ヴィソンの話をしましたが、私が調べる限りは、アクアイグニスという、複合型のリゾート仕掛けるような会社がバックにあって、菰野町でもやっていますし、全国でいろんなところでやっていますけども、そういうふうな候補地があればね、例えばさっき伊賀の話をしましたがけれども、あれは誘致してとかそういうふうなことで、働く場を設けるとか、そういった、これに限らずいろんな仕掛けができる、それを専属でタイムリミットを決めて、プロジェクトとしてやっていくというような部署の仕掛けもこの中に入れてたらどうかと思います。

多分、掛け持ちはできないと思うし、名張はおそらく過去にできてないですから、よその企業でどういうふうに行ったのかを調べるのも手だと思いますが、そういった組織の面で名張の中であえてやっていくと。いうのも、この中に盛り込んでもらうのはどうかと思います。

(会長)

わかりました。これはむしろ、発想としては逆で、「おこす」が決まったところで、これは特定の部署を作らないと難しことは作らざるをえないと思いますので、何を「おこす」かですね。まず。

それが先になって必要であれば、機構改革や、あるいは専属の職員を置くとは往々にしてあります。特に重点プロジェクトの場合はその可能性が高いので、それは将来的にまた、できたところで市長

が考えることになると思います。結局これができないと予算が立てられない。

(委員)

そういう組織を検討していただけてもいいと思いますが盛り込んでもらえたらなど。

(会長)

重点プロジェクトを進めるための組織。

(委員)

そうそう。民間的な発想でちょっと大変申し訳ないんですけども。民間だったら多分そういうふうにすると思います。そういう選択肢として、すいませんけどいようで申し訳ないです。

(会長)

他よろしいですか。皆さんから何か。

冒頭に戻りますけれども、「おこす」が重点プロジェクトのいわゆる動詞になりましたので、そこに何かをくっつけることになってますが、皆様からいくつか意見をいただきましたので、それを踏まえてまた事務局と検討して、次回お示しできればと思います。大体イメージはできたと思います。新しいものをおこしていく。それが重点プロジェクトですよ、名張の。その時にどういうキーワードをここに盛り込んでいくかってことになると思います。それでは以上で審議会終了ですけども、その他、事務局からもし何かあれば、お願いします。

4. 次回の日程調整

○次回審議会は10月26日(水)15時開始で、場所は後日連絡することです承をいただく。